

私は秋の涼風が感じられる頃になると、なんとなく思い出す歌があります。

白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒は静かにのむべかりけり (若山牧水)

呑兵衛のようで、気が引けますが、情景がいかに望ましいものとして思い浮かべることが出来ます。夜、静寂、孤独。それらをゆっくり味わうには白玉の滴が必要かもしれません。

子どもの頃、十五夜の行事を楽しみました。夜、縁側のガラス戸を開け、障子を開け、私たち子ども達が、ススキとリンドウを投げ入れた花瓶の前で、今か今かと待ち構えていると、母がブドウや梨の果物と、白く丸いお団子を持ってきてくれる。それを夢中で食べながら、満月の夜を楽しんだ思い出があります。

また、仲秋の名月の夜、友人夫妻がお弁当を持って行って、浜辺で月見をしようと誘ってくれました。大喜びで出かけましたが、月は雲にさえぎられ、私にとって肝心のお弁当はよく見えず、その上、砂が飛び込んでくるという無念な体験もありました。それにもかかわらず、私たちは「月見で一杯」と言っでは、大きな声で笑い、しゃべり、ひと時を楽しんだものでした。それも遠い昔になりました。

秋の草と言えば、私にはススキがすぐ目に浮かびます。幼児体験から抜けられないのでしょうか。ススキと言えば、箱根の台ヶ岳のススキを見に行きたくなります。雄大で、それだけ！という単純さの美。箱根はいろいろ楽しみが揃っていて、私には満足度 100%の場所なのです。①富士山 ②温泉 ③湖 ④草花 ⑤近い と5拍子も揃っているからです。その中でも、湿生花園とススキの原はどうしても立ち寄りた場所です。湿生花園で「秋の七草」の看板を見つけましたが、私は「街の子、巷の子」でしたので、野の花とは無縁で暮らしてきました。1000年以上、秋の七草として愛でられてきた花々なのに、ススキが花であり、ススキを尾花というとは、今まで知りませんでした。これでは「女性の品格」なしと言われてもしかたのないことでしょう。



この七草の中で萩の花は可愛らしい、小さい花を毎日次々つけてくれて楽しみがありましたが、毎朝掃除が大変だった思い出があります。

葛を見たのは横浜に来てからです。高速道路の擁壁を突き破って生えてくる、生命力の強い草のうえ、伸び方が早く、尋常ではない。死に物狂いで抜き取り、花など付けさすものですか！ですから葛の花を見たのは、去年が初めてでした。綺麗な紫の花びらは触るとハラハラと落ちて、はかなさを感じました。弦や草ほどに強靭さがありませんでした。

最後の「朝顔の花」には驚きました。夏休みに、子どもの観察の宿題として与えられるのが朝顔ですから、夏の花と思っていました。ところが万葉集で詠まれている「朝顔」とは「桔梗」とのことでした。桔梗の花は、初夏から、今に至るまで、我が家の窓辺から眺めることのできる花壇に咲いています。山法師の木の根元に植えられています。さわやかな明るい青紫色で、くっきりした星形の花びらの様子が遠目にもよく見えます。酷暑にも耐え、涼やかな風を送ってくれているかのように、そよそよと揺れながら、毎日、私にウイックを送ってくれていました。

隠退してから、野の草にも目を向ける時間が与えられ、本当に幸いです。今夜は、ある男性の思い出に頂いた、「白玉」ならぬ”ホワイト・ホース“で、秋の夜を静かに楽しむことにしましょうか。